

特42

456

訂親世流謠別經天卷

放下僧

17

出家僧

本稿より者下野國の住僧と云ふ

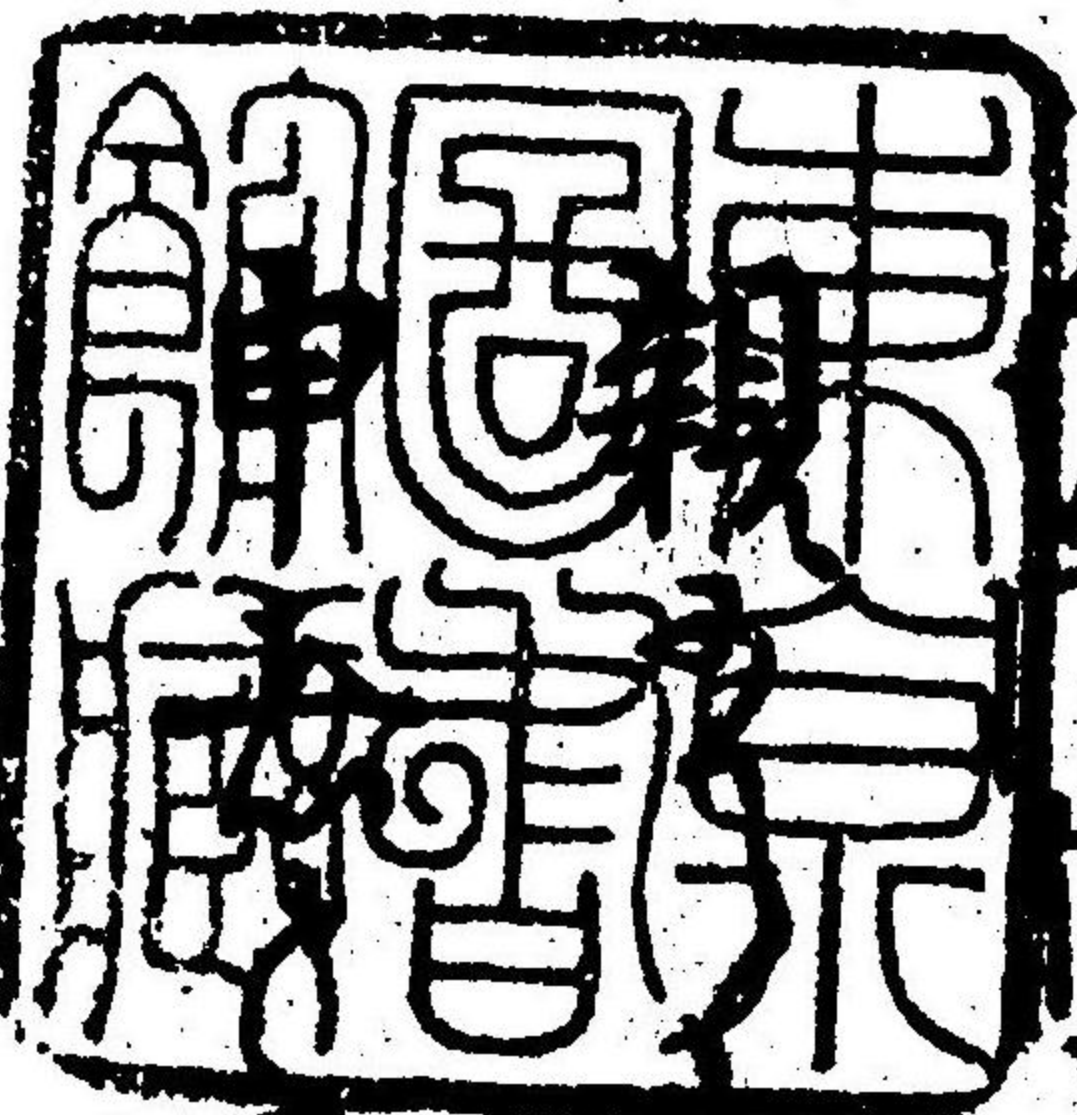
其の字は法即と申去り梅

者の相模守の信人と云ふ信儀

口論人云ふ討きて親の敵

と云ふ討てやと申す敵は猛虎也

と云ふ討てやと申す甲斐也



月日小僧入道見かへんかひの記のりて家
はげしむのりて家へも便もあへん
同はかたし人衆もあへんかひのりて
業のりてかひのりて果のりて
のりてかひのりてかひのりて
竹の馬もあへんかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて

かひのりてかひのりてかひのりて
一人かひのりてかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて
かひのりてかひのりてかひのりて

分さるる中^ノの唐^ノ才也
 母と虎と^ノ教^ノ
 百口^ノ伏野^ノ也
 夕言^ノ虎^ノ松^ノ其^ノ隱^ノ虎^ノ似^ノ大^ノ石
 乃^ノ敵^ノ虎^ノ思^ノつ^ノく^ノ其^ノ矢^ノを^ノ射^ノ
 ち^ノく^ノ放^ノつ^ノ矢^ノ則^ノと^ノま^ノた^ノら^ノ其^ノ血
 流^ノす^ノも^ノ深^ノき^ノ也

聖^ノ名^ノの^ノ美^ノを^ノ申^ノ入^ノる^ノ也
 口^ノの^ノ面^ノ目^ノの^ノ色^ノの^ノ如^ノく^ノ也
 法^ノを^ノ思^ノふ^ノた^ノま^ノは^ノる^ノ也
 梅^ノ枝^ノを^ノ付^ノく^ノて^ノ也
 家^ノの^ノ福^ノを^ノ某^ノが^ノ家^ノに^ノ也
 教^ノ下^ノ僧^ノの^ノ行^ノ也
 似^ノと^ノ稱^ノは^ノる^ノ也

上野の道法に心をこめてかへりて

是の面白き事やうたへて思ひ

守るべき事やうたへて思

ふ行脚の事やうたへて思

思ひの故家へかへりて思

くもて思ひの古郷の事やうたへ

有命の事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

思ひの事やうたへて思ひ

口から出る平力の珠を平に纏ひ

き毎二條の玉の報障無悔の姿を愛

を擲ては僧の申す多敷の玉の傳

よては國々を遊ばし國々をて遊ばし

國々を遊ばし國々を遊ばし

清くはるるるるるるるるるるるる

風を同様に吹かするるるるるる

とては復た持て置く

都ては國々を遊ばし

面白くはるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるる

りては像の目も愛の顯(淨穢不二

の報をばし神佛

りては用へるるるるるるるるるる

軍と並び給ふは世に希なる事なり
美しき御心遣ひに御心遣ひに
志す所は御心遣ひに御心遣ひに
つらき御心遣ひに御心遣ひに
僧より御心遣ひに御心遣ひに
の御心遣ひに御心遣ひに
伊予へ御心遣ひに御心遣ひに

出きの教は世に希なる事なり
背くは世に希なる事なり
是れは世に希なる事なり
行はせ給ふは世に希なる事なり
に勤し給ふは世に希なる事なり
佛に相見給ふは世に希なる事なり
御心遣ひに御心遣ひに

此書は...
 事... 行...
 名...
 少...

右之本者觀世大夫織部以章句
 真本今流行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都三茶通御幸町西二丁目
 山本長兵衛

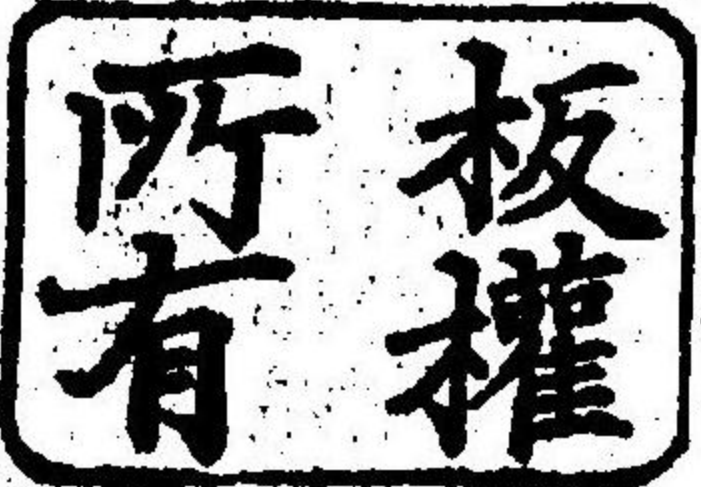


明治六年二月十七日印刷
 明治廿六年二月同日訂正出版
 明治廿六年三月九日別製本御届



東京市麹町區飯田町四丁目長谷見
 宮内省御用達

訂正者 觀世清廉



檢常之



